

芸術や音楽の楽しさに触れる

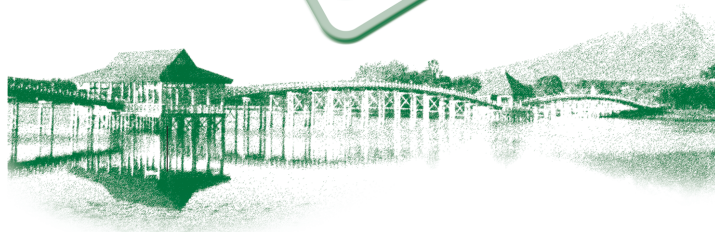
10月2日（日）、町歴史文化伝承館（旧水元小学校）で「伝承アートフェスティバル・ふれあいコンサート」が開催され、観客約300人が演奏や踊りの楽しさに触れました。

イベントでは、9月に行われたイラストや津軽凧を使った現代アートの講習会の作品展示のほか、民舞踊教室や津軽三味線教室に通う生徒の発表が行われ、津軽三味線奏者の葛西頼之さんや舞踊家の尾原家万次郎女さんが指導した演奏や踊りが披露されました。

津軽三味線の演奏を披露した鶴田小学校6年の加賀谷佳帆さんは「本番までたくさん練習してきました。三味線は少し難しかったけど、上手く演奏できたのでまたやりたいです」と笑顔で話していました。



△イベントの最後にはどだればちの演奏で参加者が手踊り



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場総務課まちづくり班（内線264）までお知らせください。

50年の結婚生活をお祝い

10月7日（金）、町国際交流会館で平成28年度の金婚式が開かれ、町内に住む夫婦20組が出席し、結婚50年の節目を祝いました。

式では、相川町長が「今日の式が皆さまの思い出の1ページになればと思います。これからも健康で長生きをして、充実した日々を過ごしてほしい」とあいさつした後、出席した夫婦へ顕彰状と、茶わんと湯飲みの睦揃えを贈りました。

顕彰者代表で、妻の君子さんと謝辞を述べた安田博さん（亀田）は「50年の間、困難はあったが、笑って乗り越えてきた。とにかく健康が第一。これからも健康を大切に、笑顔でずっと仲睦まじく過ごしていきたい」と話していました。



△出席したご夫婦に顕彰状と記念品を贈呈

キャンプで育むチャレンジ精神

自然や仲間を大切に、積極性を身に付けるための「チャレンジキャンプ 2016・ジュニアリーダー研修会」が10月8日（土）から10日（月）まで、県立梵珠少年自然の家で開催されました。

キャンプには、町内の小学生11人とジュニアリーダーの中学生8人が参加。食事の買い出しや調理、後片付けまでを自分たちで行ったほか、ダンボールを使った避難所づくりや、キャンドルサービスなどのレクリエーションを体験しました。

梅沢小学校5年の松江星七さんは「親に頼らずに、自分でテキパキ行動できるようになりたいと参加しました。みんなとゲームしたり、ごはんを作るのが楽しいです」と話していました。



△夕食の調理に挑戦する子どもたち

まちづくりのアイデアを提案

町が地域で活躍する団体と意見交換する「鶴の里まちづくりミーティング」が10月27日（木）、鶴田町コミュニティプラザ（JR 陸奥鶴田駅併設）で開催され、つるた街プロジェクトの会員と町の施策やイベントについて話し合いました。

相川町長が「楽しいと思える町をつくるために行政はどういうことに取り組めばよいか」と問いかけると、会員からは「Facebook や Twitter を使い、イベントに来る人の興味をそそるための作業風景など生の情報を発信してほしい」「私たちが当たり前のように感じているものにこそ一番価値があるので、どれだけそれを伝えていくかが大切だと思う」といった意見が出されました。



△相川町長（右）と意見を交わすつるた街プロジェクトの会員

津軽富士見湖にへら鮒を放流

10月30日（日）、菖蒲川小学校の3～6年生11人が津軽富士見湖でへら鮒の放流を体験しました。津軽富士見湖は、毎年春に全国へら鮒釣り大会が開催される湖で、全国から釣り愛好が集まるへら鮒の宝庫として知られています。

へら鮒は、日本へら鮒釣り研究会が大阪にある養魚場からトラックで運んできた体長20～25センチの3年魚。この日、児童たちは、へら鮒約2千匹をケースに入れて手分けして運び、「大きく育てね」と放流していました。

6年生の佐藤桜乃^{さきの}さんは「魚を触るのは得意ではないけれど楽しかった。放流したへら鮒が元気に湖を泳いでほしいです」と話していました。



△大人に手伝ってもらいながら、へら鮒を放流する児童たち